

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針

「自主・創造・連帯」の校訓のもと、自分の夢に向かって自発的に学習することや、部活動・学校行事を通じて仲間と協働することで、「知力、気力、体力」のバランスのとれた生徒を育成する。

- 1 学力向上と第一志望の進路実現をめざし、「チームさやま」として教職員が一丸となって、頑張る生徒を応援し課題を抱える生徒を支える学校
- 2 規律正しい生活習慣・学習習慣を確立し、あいさつ、掃除（整理整頓）、時間厳守（遅刻減少）をさらに徹底させ、他者への思いやりを身に付ける学校
- 3 国際交流（姉妹校連携）と地域連携（大阪狭山市唯一の高等学校）の双方に軸足を置き、「国際感覚を備えた地域に貢献できるリーダー」を育てる Global High School を推進する学校
- 4 いじめのない、一人ひとりに自分の居場所がある安心・安全な学校

2 中期的目標

1 さらなる学力向上と進路保障

- (1) 新学習指導要領に則して「主体的・対話的で深い学び」をめざし、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりに取り組む。
 - ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、議論、発表を通じて思考力・判断力・表現力を向上させるとともに、「観点別学習状況の評価」について研究する。
*思考の発芽（図書館・インターネットの活用）、思考の見える化（カードやホワイトボードの活用）、思考のゆさぶり（発表 / 質問 / 議論 / 助言）
講義型授業から思考を引出し学習の深化を図る。
 - イ 今後導入される1人1台端末やプロジェクター等のICT機器を活用して生徒の興味・関心を引き出すとともに、教員と生徒又は生徒同士で対話のある授業を行うことで真の理解をめざす。
 - ウ オンライン学習の体制を構築する。
- (2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。
 - ア 生徒の進路希望を尊重したカリキュラムマネジメントを行い、主体的な学びや意欲的な学びを引き出す。
 - イ 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。
 - ウ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。
※生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」、「授業の工夫度」、「カリキュラム満足度」を令和5年度に3項目すべてにおいて85%以上をめざす。（「授業満足度 H30: 65.1%、R1: 77.5%、R2: 78.7%」「授業の工夫度」(H30: 78.1%、R1: 83.9%、R2: 83.6%)「カリキュラム満足度」(H30: 72.3%、R1: 77.7%、R2: 81.2%)
※進路ガイダンス/進学講習の充実を令和5年度に85%以上を維持・向上する。(H29: 80.2%、H30: 79.8%、R1: 81.9%、R2: 87.9%)
※教職員向け学校教育自己診断「系統的な進路指導の実施」を令和5年度に80%に向上させる。(H30: 73.1%、R1: 67.3%、R2: 53.8%)
※国公立・関関同立 合格者のべ70人以上をめざす。(H30: 70人 R1: 39人、R2: 38人)

2 キャリア教育のための環境づくり

- (1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。
 - ア 「総合的な探求学習」や「道徳教育」を着実に実施し、将来を見据えた人格形成を促す。
 - イ SDGs（持続可能な開発目標）の視点をもった、国際交流及び地域連携を通じて人とのかかわりを体験させる。
 - ウ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。
 - エ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。
- (2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。
 - ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。
 - イ 1人1台端末の導入に向けて、情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。
※生徒向け学校教育自己診断「人権（人権の尊重）」の肯定的評価を令和5年度に85%以上に向上する。(H30: 77.7%、R1: 81.9%、R2: 80.8%)
※教職員向け自己診断「人権尊重に学校全体で取り組む」を令和5年度に80%以上に向上する。(H30: 73.0%、R1: 76.5%、R2: 60.4%)
- (3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。
 - ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SCとも連携しながら、学校としての相談体制を明確にする。
 - イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を与える工夫をする。
※生徒向け学校教育自己診断「学校生活満足度」令和5年度に90%以上をめざす。(H30: 78.2%、R1: 83.3%、R2: 84.9%)
同じく「相談体制満足度」を令和5年度に70%以上をめざす。(H30: 56.7%、R1: 68.1%、R2: 65.7%)

3 学校改革に向けての体制づくり

- (1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。
 - ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。
加えて、地震・台風等の自然災害、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。
 - イ 「働き方改革」を推進し、校務の精査と、分掌・委員会の統合・再編を行い、教職員の負担軽減と職務の平準化を図る。超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。
- (2) 学校を取り巻く関係団体（PTA、同窓会、後援会、地域行政、地域住民）との関係強化と広報・情報発信に取り組む。
 - ア 「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。
- (3) 学校運営協議会の提言を具現化する。
 - ※教職員向け学校教育自己診断「学校運営の勤務充実度」を令和5年度に90%以上をめざす。(H30: 86.8%、R1: 81.1%、R2: 85.5%)
 - ※保護者向け学校教育自己診断「学校満足度」を令和5年度に90%以上の維持・向上めざす。(H30: 88.8%、R1: 89.6%、R2: 91.1%)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 さらなる学力向上と進路保障	<p>(1) 新学習指導要領に則して「主体的・対話的で深い学び」をめざし、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりに取り組む。</p> <p>(2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。</p>	<p>(1) ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、議論、発表を通じて思考力・判断力・表現力を向上させるとともに、「観点別学習状況の評価」について研究する。 *思考の発芽（図書館・インターネットの活用）、思考の見える化（カードやホワイトボードの活用）、思考のゆさぶり（発表 / 質問 / 議論 / 助言） 講義型授業から思考を引出し学習の深化を図る イ 今後導入される1人1台端末やプロジェクター等のICT機器を活用して生徒の興味・関心を引き出すとともに、教員と生徒又は生徒同士で対話のある授業を行うことで真の理解をめざす。 ウ オンライン学習の体制を構築する。</p> <p>(2) ア 生徒の進路希望を尊重したカリキュラムマネジメントを行い、主体的な学びや意欲的な学びを引き出す。 イ 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。 ウ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。</p>	<p>(1) ア、イ ・生徒向け学校自己診断結果の授業満足度80% [78.7%] ・生徒向け学校自己診断結果の授業の工夫80% [83.6%] ・授業アンケートの教員平均3.3 [3.3] ・各教科におけるアクティブラーニング型の研究授業実施 ウ・長期休業中の課題の配信2回以上 (2) ア・生徒向け学校自己診断結果のカリキュラム満足度 80% [81.2%] ・教員向け学校自己診断結果の系統的な進路指導 70% [53.8%] イ・生徒向け学校自己診断結果のキャリア教育満足度 80% [87.9%] ・国公立大学・関関同立合格者：延べ70人以上 [38人] ・狭山将来構想 PT による改革を引き続き、進路実績向上をめざしてカリキュラム、補習、部活動・行事・広報を含めた学校運営全般の見直し及び改革を行う。</p>	
2 キャリア教育のための環境づくり	<p>(1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。</p> <p>(2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。</p> <p>(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。</p>	<p>(1) ア 「総合的な探求学習」や「道徳教育」を着実に実施し将来を見据えた人格形成を促す。 イ SDGs（持続可能な開発目標）の視点をもった、地域連携及び国際交流を通じて人とかかわりを体験させる。 ウ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。 エ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。</p> <p>(2) ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。 イ 1人1台端末の導入に向けて、情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。</p> <p>(3) ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SCとも連携しながら、学校としての相談体制を明確にする。 イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を与える工夫をする。</p>	<p>(1) イ・生徒向け学校自己診断結果の「ボランティア意識」70% [62.4%] ・生徒向け学校自己診断結果の「国際交流の魅力」80% [70.2%] ・狭山池クリーンアクションへの参加人数のべ500人 [約300人] エ・ビブリオバトル本大会出場3回目をめざす。[開催されず] (2) ア・生徒向け学校自己診断結果の人権意識 80% [80.8%] ・教職員向け学校自己診断結果の人権への取組み 80% [60.4%] (3) ア・生徒向け学校自己診断結果の教育相談満足度 75%以上 [65.7%] ・保護者向け学校自己診断結果の相談体制満足度 85%以上 [72.3%] ・教職員向け学校自己診断結果のカウンセリングマインド 80%以上 [75.4%]</p>	
3 学校改革に向けての体制づくり	<p>(1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。</p> <p>(2) 学校を取り巻く関係団体（PTA、同窓会、後援会、地域行政、地域住民）との関係強化と広報・情報発信に取り組む。</p> <p>(3) 学校運営協議会の提言を具現化する。</p>	<p>(1) ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。 加えて、地震・台風等の自然災害、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。 イ 「はたらき方改革」を推進し、校務の精査と、分掌・委員会の統合・再編を行い、教職員の負担軽減と職務の平準化を図る。超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。</p> <p>(2) ア 「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校自己診断結果の「いじめへの対応」80%以上 [84.0%] ・教職員向け学校自己診断結果のいじめへの対応 80% [87.1%]、危機管理 80% [75.9%] ・地震・火災を想定した年2回の防災訓練時に台風も含めた命を守る防災教育を実施する。[図上2回] ・感染症、熱中症、食物アレルギーなど生徒の健康・安全予防に関する職員研修を最低年3回実施する。[2回] イ・教職員向け学校自己診断結果の勤務の充実度 85% [85.5%]</p>	